

新庁舎建設の検討に係る住民説明会の主な意見について

番号	質問・意見等	町の考え
1	複合化について 【主な意見】 ・図書館や文化センターは複合化しないのか。 ・図書館は建設しないということか。	当初は複合化を検討していたが、新庁舎建設検討委員会の議論の中で、複合化した場合図書館は町民の求めるニーズに合う面積とならないことや、庁舎建設の事業費を削減する必要があるため、図書館などと複合化はせず、庁舎単体で建てることを検討している。なお、図書館自体を作るかどうかについては、別の話となることをご理解いただきたい。
2	候補地について 【主な意見】 ・白樺公園を候補地から外してほしい。 ・なぜ白樺公園を候補地としたのか。 ・白樺公園の緑を大切にしてほしい。	現在の4つの候補地は、当別駅周辺の町有地を基本として提示しており、それぞれ特徴や課題があるため、それらを整理した中でこれから検討を進めていく。 また、白樺公園を候補地としていることについて、基本構想に対するパブリックコメントで、町民の皆様から白樺公園に庁舎を建てることは反対という意見が多数あったことは認識している。ただし、白樺公園に建てることと仮定した場合、公園すべてを利用して建てるということではなく、自然を残したまま公園の一部を利用して建てることで、白樺公園の利用者を増やして、町のにぎわい作りをしたいという思いがあることも候補地としている要因である。
3	民間のノウハウを活用した事業手法について 【主な意見】 ・従来手法よりも民間ノウハウを活用した事業手法の方が、有利だということをしっかり検証するべき。 ・民間ノウハウを活用した事業手法とした場合は、民間事業者が廃業するリスクをどう考えているのか。	事業手法については、検討を進めている最中であり、仮に民間活力を活用した手法とする場合は、万が一民間事業者が廃業した場合でも、事業が引き継がれる体制があることが前提になると考えている。
4	ふるさと納税の活用について 【主な意見】 ・地方債の状況が厳しいというのであれば、ふるさと納税を活用するのはどうか。	新庁舎建設は事業費が大きいことや、仮に民間活力を活用する手法とした場合は、支払い期間が20年以上と長くなるため、ふるさと納税をあてにした資金確保はできないと考えている。
5	新庁舎とまちづくりの関連について 【主な意見】 ・新庁舎建設とまちのにぎわいづくりの関連はなにか。 ・新庁舎建設により、まちのにぎわいを創出するのではなく、人口増加につながる施策を行うのが先ではないか。	新庁舎の建設候補地は当別駅周辺の町有地を中心に位置づけており、そこに庁舎を建設することで、周辺に商業施設を呼び込む等、中心市街地のにぎわいを作りたいと考えている。 なお、人口増加につながる施策として、町では新築住宅購入支援金の制度を創設しており、住宅の建築数は近年増加し、人口減少に歯止めをかけている。
6	職員数と庁舎の面積の現庁舎との比較について 【主な意見】 ・新庁舎で想定している職員数と面積が現庁舎に比べてどうなのか。 ・面積算定の根拠にある「基準」とはなにか。	職員数については、現在の職員数とほぼ同じ。面積については、現庁舎の合計は3,627㎡となっており、それぞれの内訳は、事務室1,114㎡、付属所要室585㎡、固有業務室等913㎡、設備関係100㎡、交通部分897㎡、町民交流スペース18㎡となる。なお、提示している新庁舎の面積については、国土交通省の新営一般庁舎面積算定基準に基づき算出している。
7	新庁舎のビジョンについて 【主な意見】 ・新庁舎のビジョンは決まっているのか。 ・どのような庁舎を目指しているのか。	新庁舎基本構想の中に、基本理念や基本方針を設定している。基本理念は、「町民生活の安全・安心を支える」、「町の活性化に貢献する」、「町の新たな顔となる」の3つで、基本方針は、「まちづくりに寄与する庁舎」、「災害に強く、危機管理拠点となる庁舎」、「利用環境に優れたひとにやさしい庁舎」、「環境に配慮し、長く有効的に活用できる庁舎」、「当別町の魅力を発信する庁舎」の5つである。
8	新庁舎のメンテナンスについて 【主な意見】 ・新庁舎のメンテナンスについて、ヨーロッパのようにお金をかけて、耐用年数を超えても長持ちさせるようなことは考えていないのか。	財政の状況にもよるが、耐用年数を超えても長く使えるように適切なメンテナンスをすることは必要と考えている。
9	財政状況と概算事業費の単価について 【主な意見】 ・当別町の財政状況は現在どうなっているのか。 ・建設コストが上がっているが、現在算定している数字で大丈夫なのか。	令和2年度時点での町の地方債残高は約99億円あり、新庁舎建設検討委員会の中でも、事業費が過大にならないよう面積を削減するなどの検討をしている。 また、現在算定している事業費の単価は、直近で庁舎を建設した道内市町村の一番高いところとしている。想定よりも建設資材のコストは上がっているが、算定している単価の範囲で収まるのではないかと考えている。
10	交流スペースの設置について 【主な意見】 ・大学生が図書館を欲しているのは、ただ図書館が欲しいのではなく自宅や学校以外で勉強できる場所が欲しいという理由が多い。 ・大学生が地域の住民と交流できるスペースが欲しい。	大学生が勉強できたり、地域の人と関われる交流スペースを新庁舎に作れるのであれば、それを活用していただきたい。庁舎の規模的に難しいということになれば、現在計画中の民間施設とも連携し、そういった交流スペースを作れるよう働きかけていきたい。
11	庁舎の木材使用について 【主な意見】 ・町として、森林を活用する方針を掲げているのであれば、コンクリートではなく、木材を活用した庁舎とするべき。	森林等を活用した木造の庁舎については、大規模な木造建築も増えてきており、コンクリートなのかそれ以外なのかという検討は進めていかなければならないと考えている。
12	今後の住民説明会について 【主な意見】 ・検討段階での住民説明会を複数回行ってほしい。 ・次回の住民説明会は、オンライン配信とのハイブリット開催としてほしい。	次回は1月か2月頃に行うことを予定しており、その時までには新庁舎建設検討委員会で議論した内容を報告したいと考えている。 なお、説明会のオンライン配信については、検討していきたいと考えている。